



青森県感染症発生情報
(2017年第47週)

I 第47週の発生動向 (2017/11/20~2017/11/26)

1. 手足口病については、**上十三保健所管内**で**警報**が継続しています。県全体の定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較してかなり多くなっていますので注意が必要です。
2. **インフルエンザ**については、東地方+青森市保健所管内で定点当たり報告数が前週の0.85から1.54に増加しました。流行シーズン入りの目安である1.00に対し、県全体のインフルエンザの定点当たり報告数は0.71でした。インフルエンザは、いったん流行が始まると短期間に多くの人へ感染が広がりますので、今後の発生動向に注意が必要です。
3. **流行性角結膜炎**については、県全体の定点当たり報告数が過去5年間の同時期と比較してやや多く、特に三戸地方+八戸市保健所管内と五所川原保健所管内で定点当たり報告数が他保健所管内より多い状態ですので注意が必要です。

II 第47週五類感染症定点把握

※記載データは、速報値です。

青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

		東青 (東地方保健所+青森市保健所)		中南 (弘前保健所)		三八 (三戸地方保健所+八戸市保健所)		西北 (五所川原保健所)		上北 (上十三保健所)		下北 (むつ保健所)		青森県計		前週からの増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
小児科	インフルエンザ	20	1.54	19	1.27	4	0.27	1	0.14	2	0.22			46	0.71	7
小児科	RSウイルス感染症	10	1.25	7	0.78	4	0.40	6	1.20	5	0.83	3	0.75	35	0.83	3
	咽頭結膜熱	2	0.25	3	0.33	8	0.80	3	0.60	1	0.17	5	1.25	22	0.52	12
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	10	1.25	15	1.67	8	0.80	9	1.80	10	1.67	1	0.25	53	1.26	2
	感染性胃腸炎	23	2.88	15	1.67	50	5.00	16	3.20	2	0.33	6	1.50	112	2.67	1
	水痘			4	0.44	1	0.10	3	0.60	3	0.50	4	1.00	15	0.36	2
	手足口病	9	1.13	15	1.67	21	2.10	9	1.80	37	6.17	5	1.25	96	2.29	-10
	伝染性紅斑	1	0.13	1	0.11									2	0.05	1
	突発性発しん	4	0.50	4	0.44	6	0.60							14	0.33	0
	百日咳			1	0.11									1	0.02	1
	ヘルパンギーナ	8	1.00	7	0.78	2	0.20	1	0.20					18	0.43	6
流行性耳下腺炎	2	0.25			8	0.80			8	1.33	1	0.25	19	0.45	-19	
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎	2	1.00			4	2.00	2	2.00			1	1.00	9	0.82	5
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															0
	マイコプラズマ肺炎					2	2.00	2	2.00	1	1.00	2	2.00	7	1.17	-3
	無菌性髄膜炎															-1

は警報、 は注意報。「空欄」: 患者報告無し。

感染症の窓

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (五類全数把握対象疾患)

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は主にA群溶血性レンサ球菌を原因とし、急激に多臓器不全に進行する感染症です。溶血性レンサ球菌は溶レン菌(ようれんきん)と略称され、一般的には感染しても必ず発病するわけではありません。発病してもほとんどは咽頭炎にとどまり、その多くは小児が罹患します。

一方、劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、きわめて**致死率の高い**感染症で、子どもから大人まで広範囲の年齢層に発症しますが、特に30歳以上の大人に多いのがひとつの特徴です。全国における過去10年間の年間患者報告数は増加傾向にあり、本県においては例年0~4人の報告数で推移しています(図)。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の初期症状は、発熱や悪寒などの風邪様の症状、四肢の疼痛、腫脹などです。発病から病状の進行が非常に急激かつ劇的で、**発病後数十時間以内**には皮ふや筋肉などの組織壊死(このため、「**人食いバクテリア**」とも呼ばれます。)、急性腎不全、多臓器不全を引き起こし、死に至ることもあります。

傷口などが化膿・膨張して発熱するなど、異変が見られた場合は、直ちに医療機関を受診してください。少しでも早く適切な治療を受けることが重要です。

○詳しい情報はこちらをご覧ください

☞ [劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは\(国立感染症研究所\)](http://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/341-stss.html>

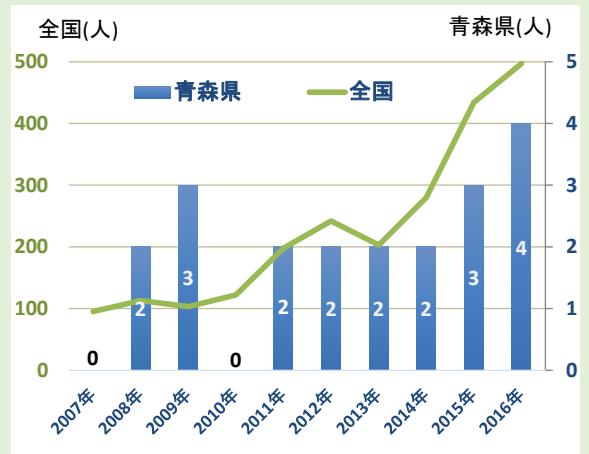


図: 全国と青森県における過去10年間の患者報告数推移

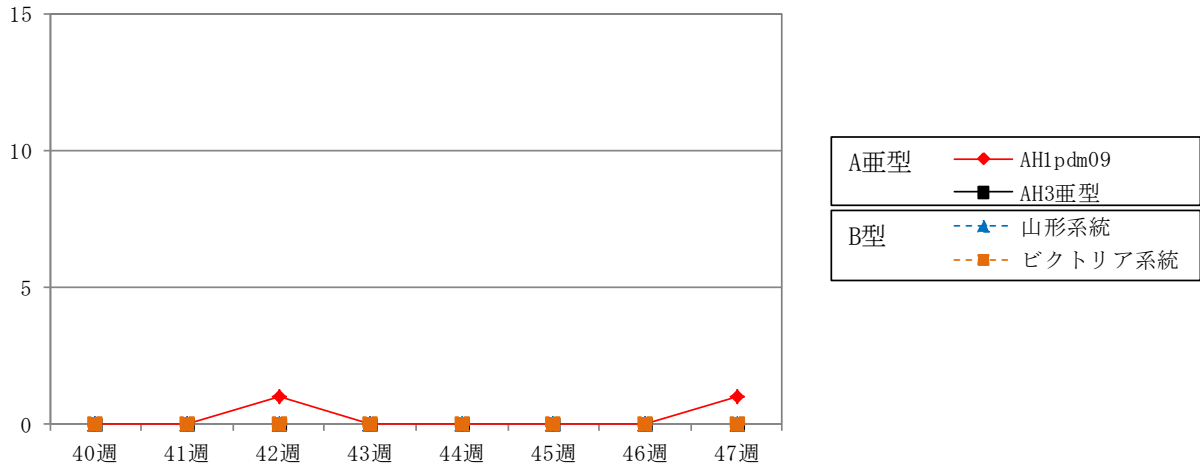
VI 県内インフルエンザウイルス検出状況（県が指定した医療機関（指定提出機関）の提出検体の検出数）

インフルエンザウイルス		2017							直近5週間 合計	2017/2018 シーズン 合計
		40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週		
提出検体数				1					4	5
検出 状況	A型	AH1pdm09		1					1	2
		AH3型							0	0
	B型	山形系統							0	0
		ビクトリア系統							0	0
合計				1					1	2

注1) 2017/2018シーズンは2017年第36週（9/4～9/10）～2018年第35週（8/27～9/2）

注2) 提出検体数に（ ）がある場合は、提出された検体のうち、現在検査中の検体数

件数 インフルエンザウイルス検出状況



VII 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2017年第44週～2017年第47週）

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
44	H29.10.30 ~ H29.11.5	アメーバ赤痢1人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		つつが虫病1人			
45	H29.11.6 ~ H29.11.12		水痘(入院例)1人	レジオネラ症1人 破傷風1人			
46	H29.11.13 ~ H29.11.19	つつが虫病2人 侵襲性肺炎球菌感染症1人		E型肝炎1人 レジオネラ症1人		水痘(入院例)1人	
47	H29.11.20 ~ H29.11.26	侵襲性インフルエンザ菌感染症1人					

VIII 結核(二類全数把握対象疾患)（2017年第44週～2017年第47週）

(人)

週	期間	東青 (東地方保健所+ 青森市保健所)	中南 (弘前保健所)	三八 (三戸地方保健所+ 八戸市保健所)	西北 (五所川原保健所)	上北 (上十三保健所)	下北 (むつ保健所)
44	H29.10.30 ~ H29.11.5					2	
45	H29.11.6 ~ H29.11.12	1					2
46	H29.11.13 ~ H29.11.19	1	1	1			
47	H29.11.20 ~ H29.11.26	2		2			

Ⅸ 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2017年第1週～2017年第46週までの累計）

分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	オウム病
累積報告数	20091	7	128	3747	36	13	281	247	24	11

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	回帰熱	コクシジオイデス症	ジカウイルス感染症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎
累積報告数	8	1	4	88	2	4	184	230	322	2

分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	ブルセラ症	ポツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
累積報告数	2	3	55	19	1	1594	41	947	259	1472

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）
累積報告数	597	12	173	486	1222	50	320	23	2730	269

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症
累積報告数	5053	117	115	70	81	188	22

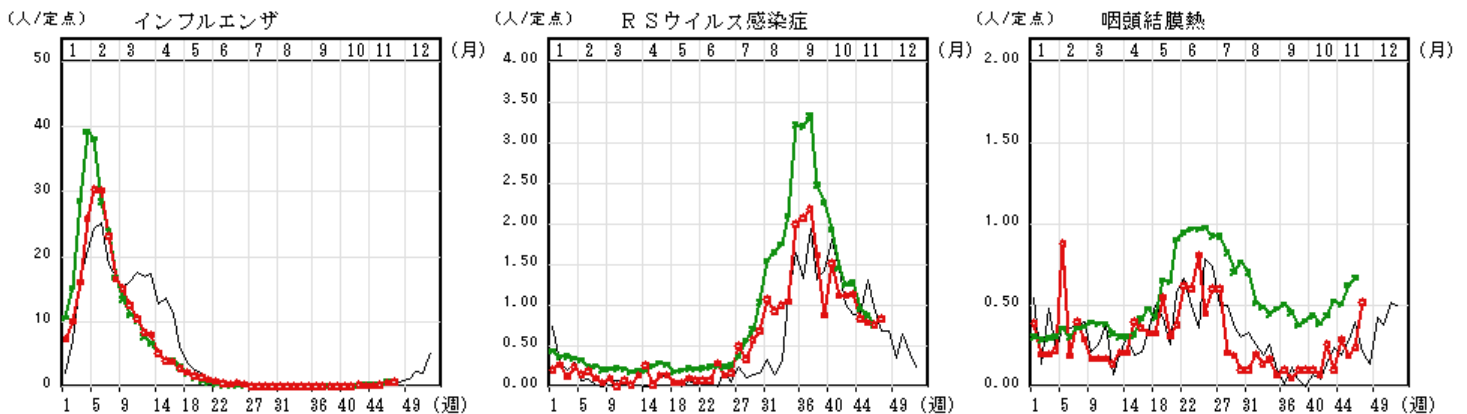
青森県（2017年第1週～2017年第47週までの累計）

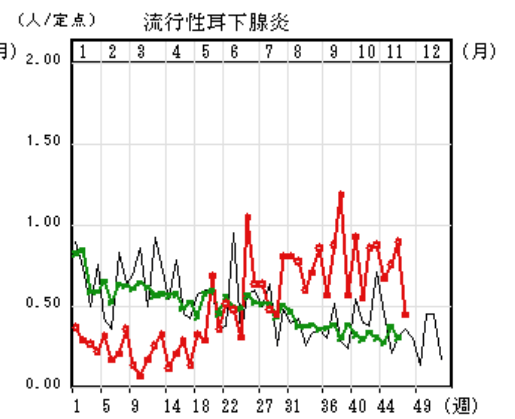
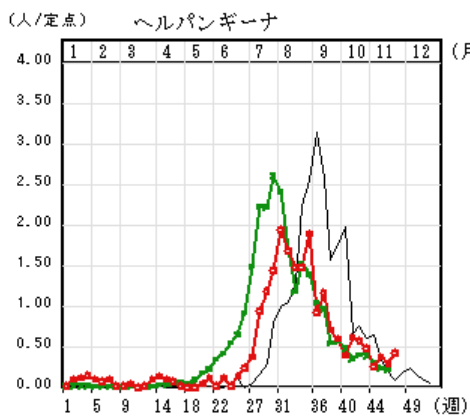
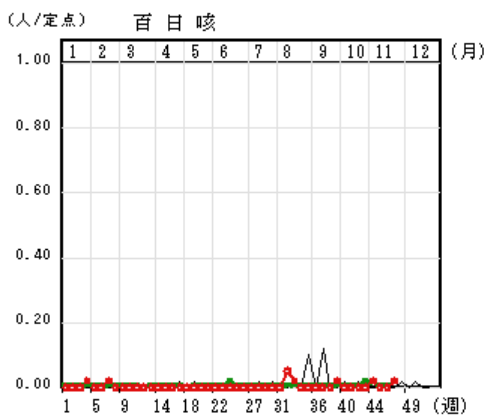
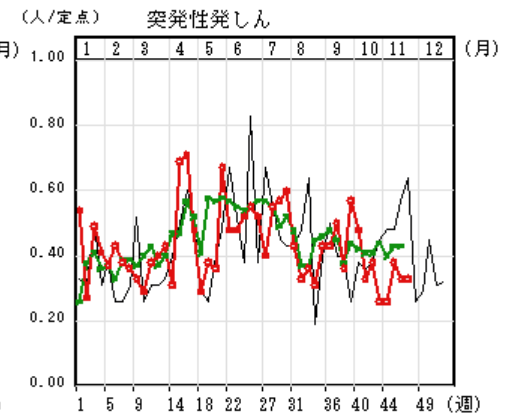
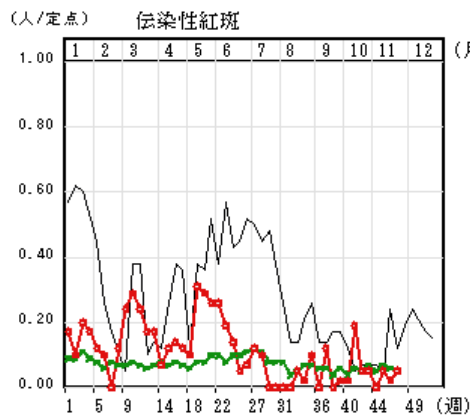
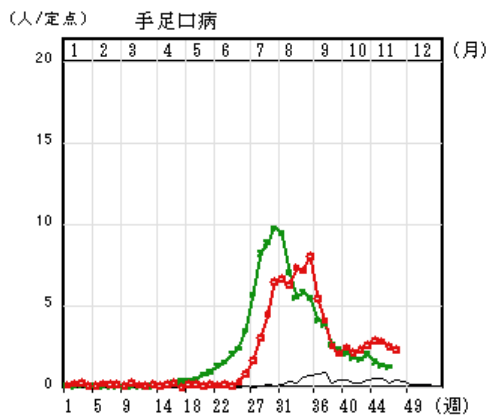
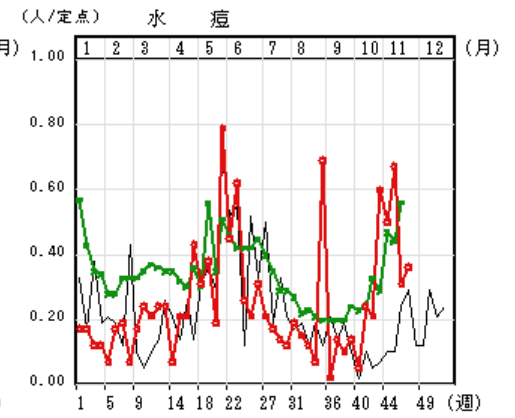
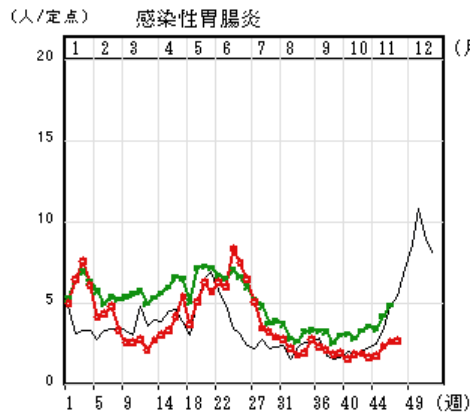
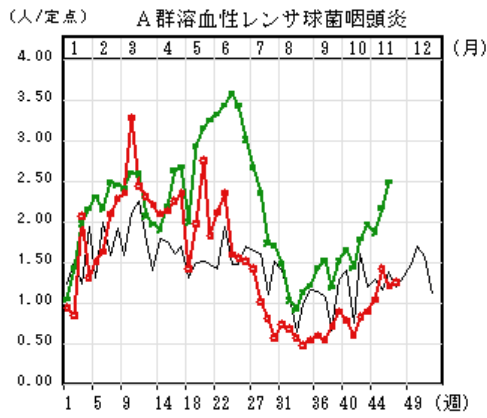
分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	A型肝炎	つつが虫病	デング熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病
累積報告数	263	31	8	2	15	1	10	5	17	1

分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘（入院例）	梅毒	破傷風
累積報告数	2	5	2	10	3	58	2

Ⅹ インフルエンザ・小児科定点把握対象疾患週別推移（2017年第47週、ただし全国は前週）

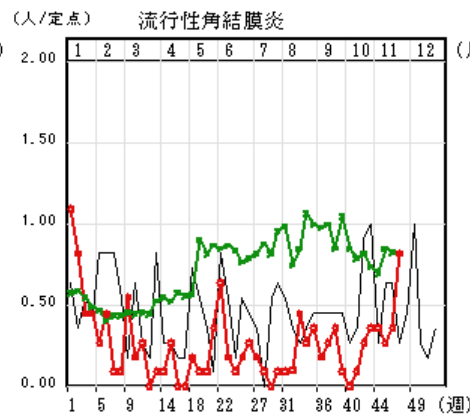
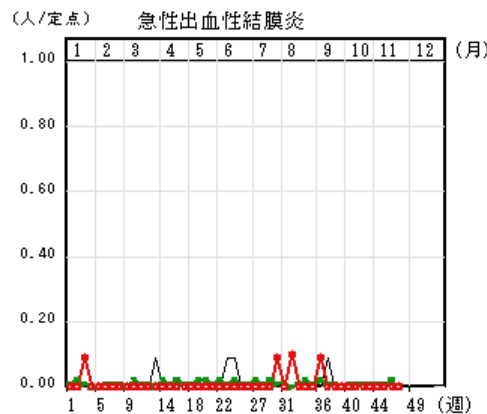
グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、×——×は2017年全国





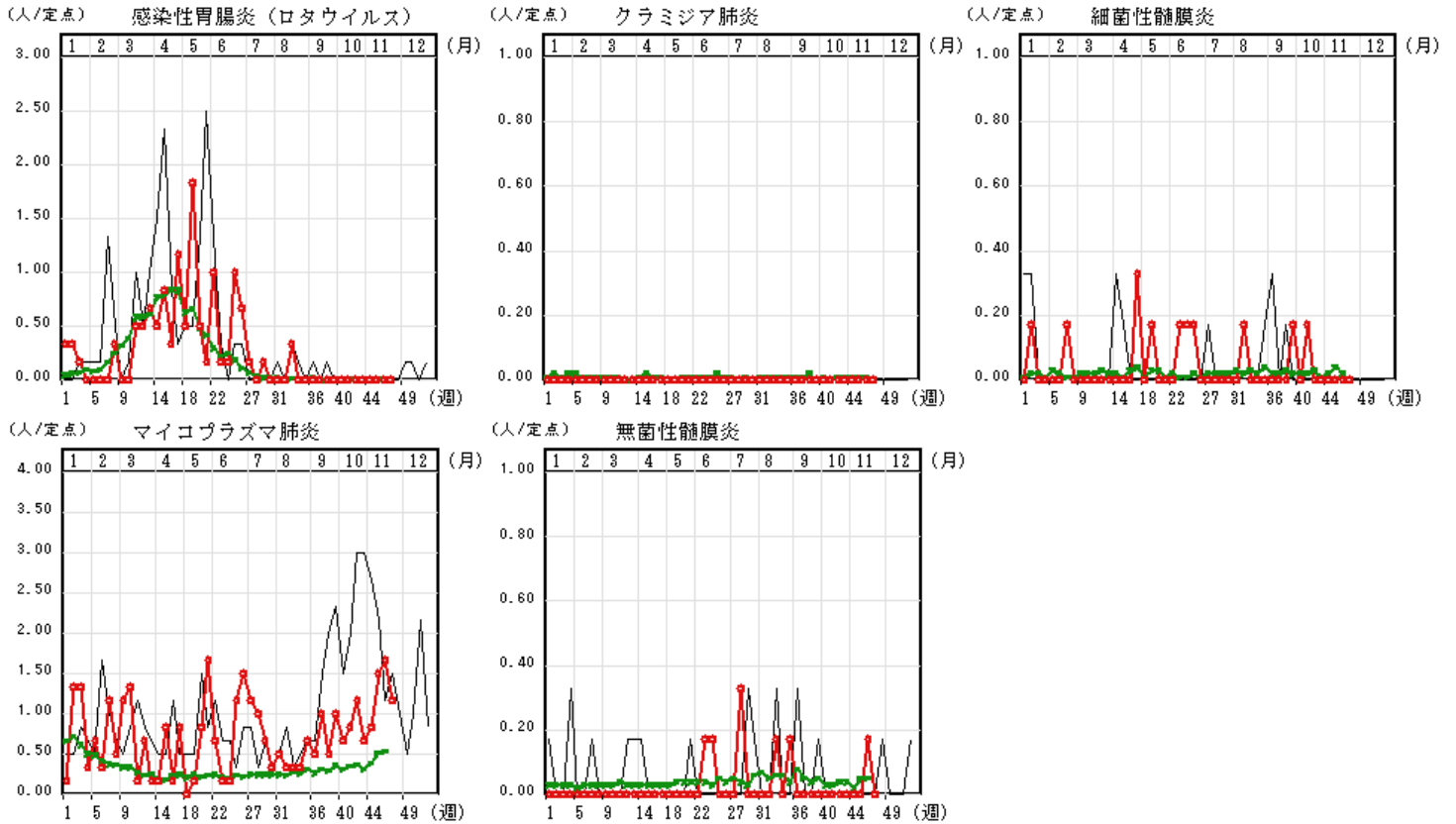
XI 眼科定点把握対象疾患週別推移 (2017年第47週、ただし全国は前週)

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



XII 基幹定点把握対象疾患週別推移（2017年第47週、ただし全国は前週）

グラフの説明 ○—○は2017年青森県、——は2016年青森県、 ×—×は2017年全国



XIII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

平成29年第47週
報告はありませんでした。

平成29年報告件数及び発症者数

施設種別	月(週)	11月												計 (施設別)			
		1月 1-4週	2月 5-8週	3月 9-12週	4月 13-17週	5月 18-21週	6月 22-25週	7月 26-30週	8月 31-34週	9月 35-38週	10月 39-43週	44週	45週		46週	47週	
介護・老人福祉関係施設	件数	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	発症者数	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
児童・婦人関係施設等	件数	1	2	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	7	
	発症者数	13	48	14	0	44	0	0	0	15	0	0	0	0	0	134	
障害関係施設	件数	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	発症者数	0	43	0	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	
その他施設	件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	発症者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計(月別)	件数	1	4	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	10	
	発症者数	13	103	14	38	44	0	0	0	15	0	0	0	0	0	227	